

越後 十字峡から丹後山～中ノ岳の周回（個人山行）

（報告）JF

◎期日：2024年9月14～16日

◎メンバー：T（L）、K、JF

このルートのことを知ったのは約1年半前、残雪期の越後駒の小屋で出会った男性客との会話でした。彼はこの越後エリアを季節を問わず歩いていて、いろんなバリエーションが選択できて十字峡を起点に周回するのも面白いですよ、と教えてくださったのでした。

さて前日の夜、海老名駅に集合し、関越道を車で飛ばして約3時間半、六日町ICで降りて、真っ暗な中、「十字峡登山センター」に到着。人の気配がまったく無く、ヘッドライトで入口を照らして照明スイッチを探す。階段で2階に上がると広々とした板の間の休憩スペースでした。窓をあけても風がなく、やや蒸し暑さを感じながら、各自シュラフマットを敷いて、仮眠をとる。

1日目

6:00に起床。協力金1,000円/人で、屋根付きで足を伸ばして快適に寝させてもらって感謝です。料金を木箱に入れて、さあ出発。朝日に照らされて青く澄んだ溪流が美しい。見上げれば青空に中ノ岳がかなり高く見えている。山頂は標高2085m、標高差1600m、どうなるでしょうか、頑張ろう。1時間で丹後山登山口に出ました。あら、直前にあったはずの水場を見逃してしまった。きっとあの右側斜面の細い川筋が水場だったんだな、と心当たりはありましたが、引き返す気にはなれず。



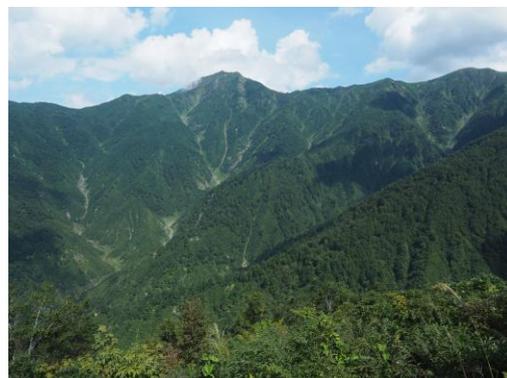
十字峡登山センター



序盤は三国川（さぐりがわ）沿いを歩く



青く澄み切った溪流



見上げれば中ノ岳（中央の高い山）

さて、ここからは溪流を離れて尾根筋をひたすら登っていきます。樹林の中を登り続けること5時間、突然、展望が開けて、一面笹に覆われた穏やかな景色が広がった。もうすぐ小屋と山頂は近い。13:40、笹の草原の中にメルヘンチックな赤色の避難小屋に到着。本日の標高差 1350m よく頑張りました。避難小屋の玄関先には大型ポリタンクが設置され、天水（雨水）が十分に貯まっている様子。最近も雨が降ってくれたのだろうか、ひと安心。ありがたく使わせていただく。日差しは暑いけれど風が気持ちよく、小屋の前で3人でまずは一服。時間はたっぷりあったので、汗をかけたシャツなどを水洗いしたり、昼寝までしてしまった。山でこんなにゆっくり過ごしたのは初めてかもしれない。小屋から丹後山山頂は目と鼻の先、時間とともに色が変わりゆく景色を見るために、気軽に何度もお散歩して写真を撮ったり、日が暮れるまでの時間をゆっくりと過ごせて、贅沢でした。



丹後山避難小屋に到着



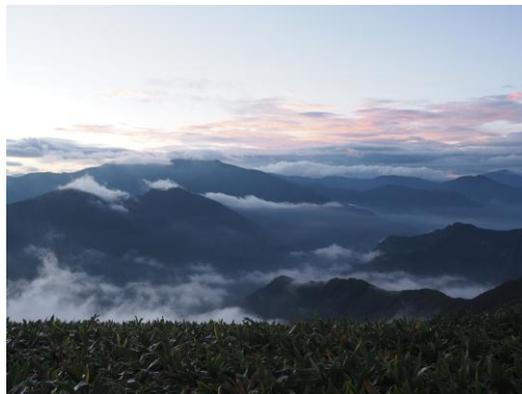
丹後山山頂の景色

2日目

まず早朝に日の出を拝む。さすがに朝は肌寒い。雲海に越後の山並みが浮かび、中ノ岳が大きくどっしりと見えている。朝食を済ませて、7時に小屋を出発。穏やかな笹の原の稜線の道はとても気持ちよい。



朝焼けの中の避難小屋



雲海と山並み

30分ほどで「利根川水源の碑」に到着。私にとって利根川は千葉県の川という印象でしたが、こんなに遠くの、ほぼ新潟県（正確には群馬県）の大水上山（おおみなかみやま）（1831m）から始まっていたとは知りませんでした。眼下に三国川（さぐりがわ）のダム湖を見ながら1時間ほど大きく登って兎岳に到着、山頂標識には「兎岳（1926m）よく来たね」の表記と、かわいいウサギちゃんフィギュア2羽が置かれていて、心がほっこりしました。兎岳からまた少し下ってまた登って30分ほどで小兎岳（1858m）に登頂。アップダウンが体にこたえます。



尾根道が心地よい



利根川水源の碑



大水上山（おおみなかみやま）の山頂にて



三国川（さぐりがわ）ダム湖「しゃくなげ湖」



金属板には「よく来たね」 兎岳と小兎岳で2羽



兎岳に登頂

道を進みながら正面に中ノ岳があるのですが雲がしつこい。たまに雲が流れて全容が現れるとカッコイイ山です。その後もアップダウンが続きます。右手の少し遠方に、ピョンととがった荒沢岳が黒く見えています。足元に見える深い谷の底には、まだ雪が溶けきらずに白く光っていて、このあたりの豪雪ぶりを感じます。珍しく対向から男性4人のパーティーが歩いてきて、すれ違い際に少し会話をすると、登山道や避難小屋などの安全状況を見回りパトロールしているという。今朝、銀山平を出て、越後駒ヶ岳、中ノ岳を過ぎてきて、今日は丹後山避難小屋まで行く予定とのこと、とてもロング&タフな行程に驚きました。この山域はエキスパートな人が来る山なのだと認識しました。中ノ岳避難小屋の水タンクはいっぱい貯まっていますよ、と教えてくれました。



中ノ岳がカッコいい



少し遠くに荒沢岳。とがった山頂と幅広い両翼

さていよいよ中ノ岳に登り始めるとガスに覆われて視界は真っ白。今にも雨が降りだしそうで、どうか小屋に着くまでもってほしいと祈りながら、ついに中ノ岳（2085m）に登頂しました。記念写真を撮り、急いで再出発しようとしたところで雨が降り始めました。避難小屋まであと10分なのに、と悔しい思いでレインウェアを着ました。雷まで鳴りはじめ、怖いけどどうする？止まってもいつまでも危険だし、先に進みましょうと言って12:45 避難小屋に無事たどり着いてほっとしました。



中ノ岳山頂



雨と雷の中、中ノ岳避難小屋に無事到着

小屋には先客の50歳くらいの男性が一人いて、話を聞くと、前日、銀山平から荒沢岳に登頂、今朝は銀山平から越後駒ヶ岳、中ノ岳に登頂して、十字峡に下るつもりだったが、疲れすぎてこの避難小屋で休むことにした、とのこと。タフだなーと感心しました。濡れた装備を解除し、暖かい恰好に着替えて、やっと落ち着きました。外は激しい雨になっていて、我々はこんな大雨になる前に小屋に入れてよかったです。外の水タンクから水をもらいたかったのですが、雨がひどすぎてとても外に出られず、手持ちの限られた水で飲食をしのいでいました。そして夕方遅く、また新たに一人の50歳代と思われる男性が小屋に入ってきました。この嵐の中を歩いていたとは驚きました。話を聞いたところ、越後三山にチャレンジしようと、八海山の千本槍小屋から歩いて来たけど、怖かった、死ぬかと思ったとのこと。地図でそのルートを確認すると、「危」マークが何か所もあり、しかもかなり長い破線ルート区間があって、この風雨の中、さぞ恐ろしい思いをされたことでしょう。ご無事でよかったです。

3日目

朝、雨は止んでくれていましたが一面霧で真っ白です。7:00 前に小屋を出発し、再び中ノ岳山頂に立ちましたが、今日も残念ながら山頂からの景色は見えませんでした。あとは下るだけです。標高差 1600m もの大下りなので、足への衝撃を少なく心掛けて歩きます。途中でところどころ池塘があり、見たことのない体長 10cm もある大きなトンボが見られました。後日調べたところオオルリボシヤンマというトンボで、最近では生息環境の悪化により数が減っているらしいです。しばらく進むと草地に不思議な大きな穴が開いていました。もともと地面に穴があったのかわかりませんが、昨日の大雨で大量の水が流れ込んで、穴が拡大？周囲の草も穴に引き込まれた？と推測しました。面白いものを見ました。そして 13:20 十字峡登山センターに無事下山しました。



3日目の朝、中ノ岳避難小屋を出発



ところどころ池塘がある



オオルリボシヤンマ、体長 10 cmほど



草地の不思議な穴

1日目、3日目は標高差が大きく、また中日の縦走もアップダウンがあり、3日間通してタフでした。出会う登山者は少なかったですが、皆それぞれ出発地と目的地がまちまちでありながら、中ノ岳が交差点のように、いろいろなルートから来る人に出会うのが面白いと感じました。

合計3泊しましたが、費用は最初の十字峡の1000円のみで、あまりお金がかからずに快適な小屋泊りできるのも魅力的でした。

《コースタイム》

1日目 獲得標高 1334m 十字峡 7:20→丹後山登山口 8:21→丹後山避難小屋 13:40 (泊)

2日目 獲得標高 693m 下降標高 456m 小屋出発 7:10→利根川水源の碑 7:40→大水上山 7:55→兔岳 8:40→中ノ岳山頂 12:25→中ノ岳避難小屋 12:45 (泊)

3日目 獲得標高 236m 下降標高 1665m 中ノ岳避難小屋 6:55→中ノ岳山頂 7:05→9合目十字峡への分岐 7:27→十字峡 13:20